

課題番号3

基本方針：Ⅱ	課題名：茶産地のGAPの推進／米欧向け茶生産技術の確立	
対象：大規模共同工場、てん茶工場／茶生産者	計画期間：H30～R2	
	事務所名：北部農林振興事務所	
普及指導事項	活動内容	活動成果（計画当初→R1年度末）
①輸出対応可能なGAPの推進	個別指導 GAP支援ソフト導入支援	ASIAGAP認証取得農場数 39農場 → 51農場 ICT(GAP支援ソフト)利用農場数 0農場 → 3農場
②米欧向け茶生産技術の確立	農薬残留調査 実証圃（減農薬資材）設置 つゆひかり二番茶減収要因の解明（被覆資材比較試験）	米欧向け生産茶園面積 5ha → 28ha（米国向け） 減農薬資材の活用 0カ所 → 1カ所 つゆひかりの植栽面積 1.25ha → 1.63ha

総合評価（コメント）
<p>A：3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ■この課題内で評価すれば、これで良いのだが、茶商相手の生産戦略だけでは、結局、規模や資本力の他産地に負けてしまうのではという懸念がよぎります。（京都、静岡や九州に及ばない）奈良県の茶農家の持続的発展を考えるためには、たとえば「大阿蘇万能茶」のような、茶と様々な薬草？を混ぜて奈良の歴史性や宗教性とからめてブランディングし、川下までの流通チェーンを構築できないと、生き残れないのでは、と危惧します。 欧米へのマーケティングという点では、自家製茶を飲んでおられる農家を訪問するような、海外茶商を招待する旅行なども必要かもしれません。 ■着実に成果がでており評価できているので、引き続きお願いします。今後は、「つゆひかり」に代わる品種の導入を期待します。 ■産地の浮き沈みを左右するかもしれない大きな課題であり、評価できると共に目標達成に向け頑張ってください。 <p>B：3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ■輸出国により残留農薬基準が違うと思うので、出荷しやすい国をひとつでもふやしていけることを願う。 ■輸出用の生産技術の確立が望まれる。湿度が高い日本で無農薬栽培するのが難しく、病気に強い抵抗性のある品種の開発にも時間がかかるなど課題が多い。大変ですが、あきらめず活動を続けてほしい。 ■GAPは極めて今日的な課題、要請。どうしてもルール作りが欧州が先行して有利という中、着実に推進しながら同時にGAP自体の「モノサシとしての公平性」をどう担保するのか、継続課題だと思う。ぜひ、意義深い取り組みなので、静岡など他の産地とも情報共有、共闘してもらいたい。

普及指導計画への反映状況等
<ul style="list-style-type: none"> ■輸出対応可能なGAP（ASIAGAP）の推進については、引き続き個別指導等により認証取得を図ります。同時に、GAP支援ソフトを茶生産者に使いやすいよう改良を進め、導入・活用を支援します。 ■輸出向け茶の生産技術確立については、まずは米国にターゲットを絞って取り組みを進めます。その延長線上に台湾・米国に続く新たな輸出先を関係機関と連携して検討していきます。 ■他府県産地との情報共有は、関西茶業振興大会や全国お茶まつりなどの機会を通して行います。なお、令和2年度は関西茶業振興大会が奈良県で開催されるため、大和茶のPRに注力していきます。